

平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月12日

上場取引所 東

上場会社名 ユニバーサルソリューションシステムズ株式会社

コード番号 3390 URL <http://www.u-s-systems.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 伊奈 聡

問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長

(氏名) 森 雄一郎

TEL 03-6892-3864

四半期報告書提出予定日 平成27年2月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	3,195	31.6	240	0.1	205	△18.1	298	△3.6
26年3月期第3四半期	2,428	92.3	240	—	250	—	309	—

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 299百万円 (△27.1%) 26年3月期第3四半期 410百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	6.26	—
26年3月期第3四半期	6.73	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第3四半期	2,323	919	39.0	18.64
26年3月期	1,981	330	13.7	5.89

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 905百万円 26年3月期 270百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

27年3月期の配当につきましては、未定であります。配当については、決定次第速やかにお知らせいたします。

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,000	29.7	400	32.0	390	25.4	240	△27.3	4.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
 新規 一社 (社名) 、 除外 1社 (社名) 株式会社ベストリザーブ

(注) 当四半期連結累計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。
 詳細は、[添付資料]P. 3「当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	48,591,907 株	26年3月期	45,983,200 株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	— 株	26年3月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	47,728,662 株	26年3月期3Q	45,983,200 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続きは終了しておりません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

<業績の概況>

当第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日～平成26年12月31日）における我が国経済は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動による落ち込みが徐々に収束することで持ち直しつつあり、雇用情勢や所得環境に改善等がみられる状況で推移いたしました。また、製造業を中心とした企業収益の改善にともない、生産・サービス活動も回復傾向となっております。一方で、景気は緩やかな回復基調となっているものの、円安などによる実質所得の目減りの懸念もあり、個人消費の持ち直しの動きに足踏みがみられる状況で推移いたしました。

当社グループを取り巻く事業環境では、スマートフォン・タブレット端末の急速な普及拡大が進み、平成26年9月末にはスマートフォン契約件数がフィーチャーフォン契約数を上回りました。また、今までIT投資が少なかった中小企業でも、スマートデバイスを活用することによって、大企業と同等の情報システムを利用することが可能になるなど、個人・法人ともにモバイルの情報通信端末の活用はますます広がっている中で、情報通信事業者による新サービスの提供開始や、仮想移動体通信事業者（MVNO）の参入など、市場環境はさらに活発になっていくことが期待されています。

このような事業環境のもと、当社グループは、業績の回復を実現した前連結会計年度からのさらなる収益力向上を目指し、既存事業の強化に努めてまいりました。飲食事業者向けのシステム事業では、中小型店向けのASPサービスや、スマートフォン・タブレット端末を利用したPOSシステムの販売を中心にお客様のニーズにお応えする総合的なソリューション提案を行ってまいりました。また、第2四半期連結会計期間にセルフオーダーシステムを全国の手飲食チェーンやカラオケ店などに提供しているアスカティースリー株式会社を子会社化し、飲食事業者向けのソリューションサービスの収益力強化を図ってまいりました。

さらに、スマートフォンを中心とした携帯電話等の販売を行う直販事業につきましては、販売体制の強化等に取り組んだ結果、販売数が堅調に推移いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は3,195百万円（前年同期比31.6%増）となり、営業利益240百万円（前年同期比0.1%増）、経常利益205百万円（前年同期比18.1%減）、四半期純利益298百万円（前年同期比3.6%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

①システム事業

システム事業セグメントは、飲食事業者向けのASPサービスや、スマートフォン・タブレット端末を利用したPOSシステムの販売を中心に、店舗運営をサポートするソリューション提案を行っております。

前連結会計年度には大手飲食事業向けASP事業を譲渡いたしました。第2四半期連結会計期間にセルフオーダーシステムを全国の手飲食チェーンやカラオケ店などに提供しているアスカティースリー株式会社を子会社化し、飲食事業者向けのソリューションサービスの拡充を行ってまいりました。また、飲食店向けに販売情報を収集して分析するPOS・オーダーエントリーシステム「ダイニングPOS」並びに「ダイニングレジスター」の新規顧客の獲得や、不動産事業者向けにWEBを用いた物件情報開示サービスのシステム保守並びに開発等を行ってまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は607百万円（前年同期比26.7%減）、セグメント損失は79百万円（前年同期はセグメント利益171百万円）となりました。

②メディア事業

メディア事業セグメントは、連結子会社の株式会社ベストリザーブにて、ホテル業界に特化した予約サイトの運営や広告サービスを行ってまいりましたが、第2四半期連結会計期間において、同社株式の一部を譲渡したことにより、連結の範囲から除外しております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は102百万円（前年同期比78.4%減）、セグメント損失は0百万円（前年同期はセグメント利益43百万円）となりました。

③直販事業

直販事業セグメントは、主にスマートフォンを中心とした携帯電話端末や周辺機器、モバイルデータ通信端末の販売を行っております。消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動があったものの、人気機種の新規端末の発売や、販売体制の強化等に取り組んだことにより、販売数が堅調に推移いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,485百万円（前年同期比119.5%増）、セグメント利益は397百万円（前年同期比199.8%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

	前連結会計年度末	当第3四半期連結会計期間末	増減
	百万円	百万円	百万円
総資産	1,981	2,323	341
負債	1,651	1,403	△247
純資産	330	919	588

総資産は、主にのれんの増加により、前連結会計年度末に比べて341百万円増加し2,323百万円となりました。

負債は、主に未払金の減少により、前連結会計年度末に比べて247百万円減少し、1,403百万円となりました。

純資産は、主に株式交換の実施に伴い資本剰余金が増加したこと、四半期純利益を計上したことにより、前連結会計年度末に比べて588百万円増加し、919百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年度3月期の通期業績予想については、平成26年11月10日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第2四半期連結会計期間に、株式を一部売却したことにより、株式会社ベストリザーブを連結の範囲から除外し持分法適用の範囲に含めております。

また、特定子会社の異動には該当していませんが、第2四半期連結会計期間より株式交換により完全子会社化したアスカティースリー株式会社を連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	463	754
売掛金	1,088	612
たな卸資産	11	146
その他	178	73
貸倒引当金	△8	△9
流動資産合計	1,734	1,577
固定資産		
有形固定資産	57	151
無形固定資産		
のれん	60	356
ソフトウェア	14	85
その他	1	2
無形固定資産合計	76	444
投資その他の資産		
投資有価証券	9	45
その他	127	131
貸倒引当金	△23	△26
投資その他の資産合計	113	150
固定資産合計	247	746
資産合計	1,981	2,323
負債の部		
流動負債		
買掛金	448	207
短期借入金	—	50
1年内返済予定の長期借入金	78	114
未払金	663	372
未払法人税等	58	40
賞与引当金	66	3
役員賞与引当金	17	1
ポイント引当金	5	—
その他	71	202
流動負債合計	1,408	993
固定負債		
長期借入金	239	326
その他	2	84
固定負債合計	242	410
負債合計	1,651	1,403
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,454	1,454
資本剰余金	1,973	2,310
利益剰余金	△3,157	△2,859
株主資本合計	270	905
少数株主持分	59	13
純資産合計	330	919
負債純資産合計	1,981	2,323

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	2,428	3,195
売上原価	1,208	1,764
売上総利益	1,220	1,431
販売費及び一般管理費	979	1,190
営業利益	240	240
営業外収益		
貸倒引当金戻入額	21	2
その他	1	0
営業外収益合計	23	3
営業外費用		
支払利息	12	18
持分法による投資損失	—	15
その他	0	4
営業外費用合計	13	38
経常利益	250	205
特別利益		
子会社株式売却益	—	150
事業譲渡益	182	—
その他	9	—
特別利益合計	192	150
特別損失		
投資有価証券売却損	0	—
その他	0	—
特別損失合計	0	—
税金等調整前四半期純利益	442	355
法人税、住民税及び事業税	31	56
法人税等合計	31	56
少数株主損益調整前四半期純利益	410	299
少数株主利益	100	0
四半期純利益	309	298

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	410	299
四半期包括利益	410	299
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	309	298
少数株主に係る四半期包括利益	100	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	システム 事業	メディア 事業	直販 事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	822	475	1,131	2,428	—	2,428
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	6	0	0	7	△7	—
計	828	475	1,132	2,436	△7	2,428
セグメント利益	171	43	132	347	△107	240

(注) 1 セグメント利益の調整額△107百万円は、セグメント間取引消去△0百万円、各セグメントに配分していない全社費用△107百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	システム 事業	メディア 事業	直販 事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	607	102	2,485	3,195	—	3,195
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	0	0	0	△0	—
計	607	102	2,485	3,195	△0	3,195
セグメント利益 又は損失(△)	△79	△0	397	318	△77	240

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△77百万円は、各セグメントに配分していない全社費用△77百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第2四半期連結会計期間にアスカティースリー株式会社を連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、システム事業において、852百万円増加しております。